

希望に燃えて仕事を続けるために重要な 職場の労働条件改善

意外にきびしい

県庁マンの労働

新規採用で入庁した職員のみなさんは、数ある職種の中から、埼玉県職員を選択していただいたので、公務員としての意欲の強い方々であると思います。

職場の先輩として大変心強く思うのですが、心配な点もあります。若い人程労働組合への加入に関心のない人が多いということです。

みなさんも、職場に配属されて一人前の仕事を任される過程で、きわめて多様な事務を短時間で行うことを要請され、実績を評価されるといふ今までの公務員のイメージが変わることでしよう。仕事面で鍛え

られることは必要ですが、無駄な仕事が多く、努力しても給料に反映されないなどの問題があることに気がつくのにそれほど時間はかからないはずですが、県庁組織でも過労等によるウツが増えています。仕事の問題で職員個人が意見を述べても、単に文句を言っているとしが認識されにく

いでしよう。労働組合として、組織のあり方を問題化して、労使の話し合いによって解決を図る必要があります。

公務員の賃金は 本当に高すぎるのか？

マスコミ論調では公務員の賃金が高すぎるとの言説がまかり通っています。本当でしょうか？紙面の関係で賃金構造の詳しい説明は省略しますが、世代間格差で、若い職員ほど生涯賃金が低下するという傾向が強くなっています。大卒者の採用が多いのに、将来自分の子どもが二人、私立大学に入學すると生活は厳しくなってしまう。生涯賃金の抑制はより強くなっていきます。

二〇〇六年に「階級社会」(講談社選書メチエ)という名著を著した橋本健二氏は、同書で、新中間層は「人は信用できる」と考え

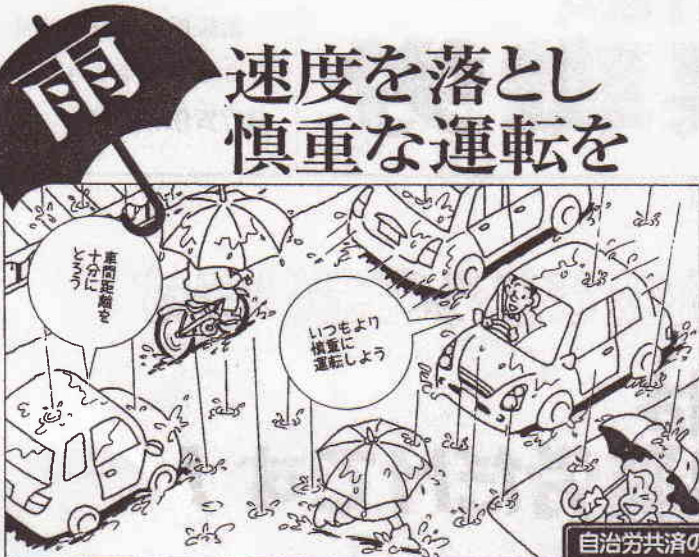
埼玉県庁の特色
フリーライターの
行動原理を変えよう

る比率が比較的高く、労働組合加入率の高さと相関関係があると指摘しています。地方公務員は同書で言うところの新中間層なので、全

会的に県庁レベルでの自治労組織率は極めて高いこと、この傍証でもあります。ところが埼玉県の場合は、組合加入率が低いのでこの理論からはずれています。

組合に加入しなくても交渉の成果が得られるという経済合理性で組合加入を避ける人々をフリーライダー(ただのり)といいます。今年度の新規採用のみなさんが、埼玉県庁職員の行動原理を変えていただくことを願っています。

速度を落とし 慎重な運転を



雨の日は視界が悪く、路面がすべりやすいなど、悪条件が重なります。スリップの危険性のほか、歩行者も足元や傘に気を取られているので、注意が必要です。晴れている時よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって慎重に運転しましょう。そして安心のカーライフのために、自治労共済の「自動車共済」にぜひご加入ください。

自治労共済の 自動車共済



自治労共済

対人、対物賠償とも無制限で安心(四輪車)

年齢、排気量、走行距離にかかわらず掛金は同じ

※軽自動車は普通車・小型車より安くおきます

運転者限定もありません 友人が運転してもOK!

※事前申請がない場合や「支払済し」での事故は対象外です

おすすめは「人身傷害補償付常型」ABC型

充実の「ロードアシスタンスサービス」

労働組合は 問題解決の回路

労働基本権の代償措置である人事院・人事委員会の勧告さえ政府や自治体が値切られる現在、賃上げの要求を実現することは困難です。しかし、労働組合の運動がなければ、本場に当局のいいなりになります。

労働組合の基本は話し合いで問題解決を図ることです。

現代の課題

貧困問題でも取組

近年、格差社会や階級社

会、階層の下流化などという現象が社会を覆い、昨年末には「反貧困」の社会運動が「年越し派遣村」を運営して注目を浴びました。私たち公務の職場の労働者は、社会が抱える困難について無意識でいるわけにはいきません。自治体の労働者として看過できない問題として、私たち県職労は、県当局に要請書を提出しています。自分たちの賃金労働条件の向上だけでなく、関連法人や委託派遣の労働者、そして地域全体の労働者が賃金労働条件を改善して人間らしい生活を送れることを目指しています。